

# 授 業 要 項



2023年度（3学年）

富士市立看護専門学校



## 目 次

1. 履修の手引き	1
2. 進度表	5
3. 行事・教科外活動	6
4. 各年次の履修科目と時間数	7
5. 基礎分野	
人間関係論Ⅱ	8
6. 専門基礎分野	
医療概論	9
社会福祉	10
関係法規	11
7. 統合分野	
看護の統合と実践	
看護の統合Ⅱ	12
看護の統合Ⅲ	14
看護の統合Ⅳ	17



## 履修の手引き

この手引きは、履修のために必要なことが書かれています。熟読かつ活用して、効果的に学修しましょう。

また、学生便覧の成績評定に関する規程、成績評定に関する規程細則についても熟読し、計画的に履修しましょう。

### 1. 単位取得についての注意点

- 1) 卒業までに 98 単位の履修が必要です。履修科目は全てが必修科目です。
- 2) 履修科目は 1 年次・2 年次・3 年次と履修の時期や順序が決まっています。さらに、技術テスト I・II が合格できない場合も、臨地実習の履修ができなくなるので、履修要件を把握しましょう。

### 2. 評価方法について

- 1) 評価方法は筆記試験・レポート・実技試験・出席・授業態度等、各講師により異なります。授業要項で確認しておきましょう。但し、講師によっては授業要項の内容を変更する場合がありますので、開講後、担当講師の説明をよく聴いてください。
- 2) レポートをもって評価する科目については、指定された期限内に提出しなければなりません。やむを得ない理由により指定された期限内に提出できない者は、成績評定に関する規程に準じます。
- 3) 学科試験の受験資格は、当該学科の授業時間数の 2/3 以上の出席を要します。なお、やむを得ない理由により欠席する場合を除き、授業全てに出席することが望ましいです。時間数の少ない講義もあるため、全ての時間に出席できるよう自己管理してください。
- 4) 追試験は病気・忌引き・公共交通機関の遅れ・就職試験・進学の実験・その他校長が特別の事情と認めた場合には、必要な添付書類と追試験受験願を提出することで受験できることがあります。詳細は学生便覧の成績評定に関する規程第 4 条を参照してください。
- 5) 再試験を受けようとする者は、合否決定の翌日の午後 5 時までに再試験受験願を提出しなければなりません。提出できない者は、成績評定に関する規程に則り、受験できません。
- 6) 複数の講師により構成される科目については、それぞれに評価方法を提示してあるので、事前に確認してください。

### 3. 開講時の準備について

#### ※ 授業を受ける際の注意点

- 1 単位の学修時間は「45 時間」と文部科学省にて定められています。そのため、授業時間

が 45 時間より少ない場合は、その不足する時間数は「自己学修時間」と設定されています。

(例えば、1 単位 15 時間の授業の場合は、不足する 30 時間が自己学修時間であり、1 単位が 30 時間の授業の場合は、15 時間が自己学修時間である) その点を意識して、十分な自己学修を行う必要があります。

- 1) 時間割で初講・終講、試験日を確認し、計画的に学修を進めてください。
- 2) 初講前には必ず授業要項を読み、科目の概要を把握し、必要なテキスト・副読本を準備してください。また、講義によっては事前学修課題が提示されることがありますので、計画的に課題学修を行い、授業に臨んでください。

#### 4. テキスト（教科書・副読本）の取り扱いについて

- 1) 冊子版のテキストは購入後速やかに不足や乱丁等を確認し、不都合のある場合は、直接購入書店に連絡してください。
- 2) 冊子版のテキストには必ず名前を書き紛失しないようにしてください。紛失した場合には再度購入が必要となります。

#### 5. 効果的な学修のために

- 1) わからないことをそのままにせず質問する等、理解できるように努めましょう。
- 2) 知識は、最終的には患者の看護に活かすものです。暗記するだけでは役に立たず、根拠を踏まえ理解する必要があります。知識を積み重ね、関連性を意識して学修しましょう。
- 3) 講義では重要な点について取り上げています。一回だけのものですから大切にしましょう。集中することが知識の定着につながります。
- 4) 講義資料は整理し活用できるようにしましょう。その後の臨地実習の準備学修や国家試験の学修に役立ちます。
- 5) 高校までの授業と違い、板書をきれいにするような講義スタイルはほとんどありません。講師の話聞きながら重要な点にアンダーラインを引いたり、ノートやテキストにメモしたりするようなスタイルの講義が多くなります。またグループワークを行い、まとめ上げて発表することや、自分の考えをレポートにまとめて提出することも増えます。受け身ではなく、主体的に学修する姿勢が大切です。

#### 6. その他の注意事項

- 1) 時間割の変更について  
時間割の変更は 1 階掲示板にて連絡します。緊急時は口頭でお知らせします。掲示板は、登校時及び下校時には確認する習慣をつけましょう。
- 2) 終講時は一部の講師に対しては「授業評価」を行います。目的はその科目に対する学生自身の学修姿勢や学びを振り返り、講師や教員の授業改善に向けての評価のために実施しています。授業評価の結果は担当講師に伝えます。真剣な取り組みをお願いします。

- 3) 講義中は私語や飲食は禁止です。
- 4) 原則として携帯電話・スマートフォンは電源を切り、授業で使用する場合は教員の指示に従ってください。デジタル教科書をダウンロードしたタブレット等は使用できません。
- 5) 居眠りはしないでください。
- 6) マナーが悪い場合には退室を命じる場合もあります。出席時間として認められなくなります。
- 7) 校内での演習中はお互いを姓で呼び合い、丁寧な言葉遣いを習慣化してください。

## 7. 学科試験実施要領（単位認定試験）

学科試験においては、以下の実施要項に従い、確実に単位を修得してください。

### 1) 学科試験の目的と心構え

学科試験（単位認定試験）は学生の成績評価方法の一種として行われますが、国家試験の受験資格や卒業要件、大学編入や大学院進学の原因となるものです。したがって試験を神聖なものとして重く受け止め、カンニングや不正行為のないようにしてください。試験中の不正行為やそれと疑われる行為があった場合は、単位の修得の取り消しや懲戒処分の対象になります。

### 2) 単位認定試験の注意事項

- ・ 座席は学籍番号順とする。
- ・ スマートフォンや携帯電話、ウェアラブル端末は電源を切り、試験前に、学籍番号が明記してある個別袋に入れ、教室後ろのロッカーの上に番号順に並べて置く。
- ・ テキストやノート、電源を切ったタブレットはカバンに入れ、教室後ろのロッカーに入れるか、更衣室のロッカーに入れる。教室後ろのロッカーの上には、個別袋に入れたスマートフォン・携帯電話・ウェアラブル端末以外の物を置かないこと。
- ・ 机の中や横に物を置かないこと。
- ・ 机の上に落書きや走り書きがないことを確認し、あれば消す。
- ・ 机と机の間隔は均等にする。
- ・ 貴重品は、各自が責任持って管理する。
- ・ 机の上には、鉛筆（シャープペン）・消しゴムのみを準備し、原則として、それ以外の物は置かないこと。
- ・ やむを得ず、ティッシュペーパー、膝掛け等を使用したい場合は、開始前迄に試験監督者に申請し許可を得る。
- ・ 試験開始前の私語は厳禁であり、学生は5分前には着席して待つようにする。
- ・ 試験問題や解答用紙が配布されたら、試験監督者の指示があるまでは触れてはいけない。
- ・ 試験開始の合図があったら、学籍番号と名前を記載する。
- ・ 試験問題等に不鮮明な個所がある場合は静かに挙手し、試験監督者に伝える。

- ・ 試験中に気分が悪くなった場合やトイレに行きたくなった場合は静かに挙手し、試験監督者の指示に従うこと。
  - ・ 試験時間内の退出は認めない。(原則として45分間)
  - ・ 試験終了の合図があったら速やかに筆記用具を置く。
  - ・ 試験監督者の指示に従って解答用紙と試験問題を全て回収する。
  - ・ 試験監督者からの解散の合図があるまでは着席して待つ。
- 3) 遅刻者への対応
- ・ 試験開始予定時刻より15分を超えて遅れた場合は、試験を受けることができない。
- 4) 不正行為の禁止
- ・ 試験中の不正行為や試験中の不正行為と疑われる行為は、戒告や停学の懲戒処分に該当する行為となる。
  - ・ カンニングは不正行為である。
  - ・ 試験監督者の指示に従わない、または不正行為と疑われる行為(キョロキョロする、覗き込む等)が認められる場合は、不正行為とみなし試験は無効となる。
  - ・ 試験用紙及び解答用紙の配布や回収時に私語があった場合は、不正行為とみなし試験は無効となる。
  - ・ 携帯電話やスマートフォン、タブレット、ウェアラブル端末で試験問題の撮影をした場合は、不正行為とみなし試験は無効となる。





## 行事・教科外活動

		1年次	2年次	3年次	時期
行事・教科外活動	入学式	3	3	3	4月
	オリエンテーション	12			4月
	フレッシュマン研修	12			4月
	防災訓練	6	3	3	4月
	生活安全講話	1	1		4月
	健康診断	2	2	2	4月
	オープンキャンパス	3	3		7月
	救急の日		3		9月
	学生祭	9	9	9	11月
	宣誓式	3	3		2月
	記念講演会	2	2		2月
	地域の病院を知る会	3			2月
	卒業式	2	2	2	3月
	各学年小計		58	31	19
合計（時間）		108			

## 学修支援時間

		1年次	2年次	3年次	時期	
クラス運営	4月		2	2	4月	
	7月	2	2	2	7月	
	8月	2	2	2	8月	
	12月	2	2	2	12月	
	1月	2	2	2	1月	
	3月	2	2		3月	
その他	進級講話		2	2	4月	
	入学式全体練習		2	2	4月	
	宣誓式総練習	2	2		1月	
	卒業式総練習	2	2	2	3月	
	基礎看護技術導入	2			4月	
	フレッシュマンオリエンテーション	2			4月	
	国試出張ガイダンス			4	6月	
	国家試験手続き			2	11月	
	ケースレポート聴講		6		8月	
	ケースレポート準備			2	8月	
	EGオリエンテーション			2	7月	
	ゲートキーパー			2	2月	
	学生祭準備	4	4	2	11月	
臨地実習オリエンテーション	基礎Ⅰ	2			9月	
	基礎Ⅱ	2			12月	
	基礎Ⅲ		6		7月	
	領域全体オリエンテーション		2		12月	
	母性オリ		2		12月～1月	
	小児オリ		2		12月～1月	
	老年Ⅰ・Ⅱオリエンテーション		4		10月	
	老年Ⅲオリエンテーション		2		1月	
	成人オリエンテーション		2		1月	
	精神オリエンテーション		2		3月	
	在宅オリエンテーション		2		2月	
	臨地実習まとめ技術テスト	基礎Ⅰ	2			9月
		基礎Ⅱ	2			12月
基礎Ⅲ			4		7月	
3年間				6	12月	
技術テスト	ユニフォームオリエンテーション	2			5月	
	基礎看護技術テストⅡ		8		11～12月	
	技術総合評価結果伝達			4	12月	
各学年小計		32	66	40		
合計（時間）		138				

### 3年次 履修科目と時間数

基礎分野									
科目		時間数	単位	担当講師	内外の別	開講時期	評価	試験配点	試験月
人間関係論Ⅱ (エンカウンター・グループ 研修)	エンカウンター・ グループ研修	26	1	公認心理師 臨床心理士 (4名)	外部	8月	出席 レポート	優	8月
	フォローアップ研 修	4				2月			2月
<3年次計>		30	1						

専門基礎分野									
科目		時間数	単位	担当講師	内外の別	開講時期	評価	試験配点	試験月
医療概論	医療概論①	7	1	病院医師	外部	9月	レポート	50	10月
	医療概論②	8		専任教員	内部	9月	レポート	50	
社会福祉		30	2	大学教員	外部	5月	試験	100	10月
関係法規		30	2	大学教員	外部	7月	試験	100	12月
<3年次計>		75	5						

専門分野Ⅱ										
科目		時間数	単位	担当講師	内外の別	開講時期	評価	試験配点	試験月	
成人看護学	臨地実習	成人看護学Ⅲ	90	2	専任教員	内部	4月	臨地実習	100	4月～11月
老年看護学	臨地実習	老年看護学Ⅲ	90	2	専任教員	内部	4月	臨地実習	100	4月～11月
小児看護学	臨地実習	小児看護学	90	2	専任教員	内部	4月	臨地実習	100	4月～11月
母性看護学	臨地実習	母性看護学	90	2	専任教員	内部	4月	臨地実習	100	4月～11月
精神看護学	臨地実習	精神看護学	90	2	専任教員	内部	4月	臨地実習	100	4月～11月
<3年次計>		450	10							

統合分野										
科目		時間数	単位	担当講師	内外の別	開講時期	評価	試験配点	試験月	
看護の統合Ⅱ	看護管理	8	1	看護管理者	外部	6月	試験	30	7月	
	医療安全①	10		看護師	外部	5月		30		
	医療安全②	12		病院医療安全 管理者	外部	7月		40		
看護の統合Ⅲ	国際看護	4	1	専任教員①	内部	9月	出席/レポート	10	9月	
	災害概論	4		大学教員	外部	5月	出席/レポート	10	6月	
	災害看護概論	6		専任教員②	内部	6月	試験	20	10月	
	災害時の看 護介入	被災者の看護		6	専任教員③	内部	9月	試験		20
		救急看護		8	専任教員④	内部	5月	試験		20
	救護活動に必要な技術	4		消防署職員	外部	7月	資格取得	10	7月	
	医療機器と看護	4		病院臨床工学技士	外部	7月	出席/レポート	10	7月	
看護の統合Ⅳ	ケースレポート	16	1	専任教員①	内部	4月	ケースレポート	50	8月	
	技術総合評価	8		専任教員②	内部	11月	技術テスト	30	11月	
	看護のまとめ	6		専任教員③	内部	12月	レポート	20	12月	
在宅看護論	臨地実習	在宅看護論	90	2	専任教員	内部	4月	臨地実習	100	4～11月
看護の統合と 実践	臨地実習	統合実習	90	2	専任教員	内部	9月	臨地実習	100	9～11月
<3年次計>		276	7							

総合計		
基礎分野	1単位	30時間
専門基礎分野	5単位	75時間
専門分野Ⅱ	10単位	450時間
統合分野	7単位	276時間
<3年次計>	23単位	831時間
行事・教科外活動+学修支援時間	19+40=59時間	
合計	890時間	



# 基 礎 分 野



授業科目	人間関係論Ⅱ (エンカウンター・グループ研修)	講師	公認心理師、臨床心理士		
開講時期	3年次	単位数	1単位	時間数	30時間
<p><b>【目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体験学修を通し自己理解・他者理解・相互関係の理解を深め、豊かで安定した人間性を育む。</li> </ul> <p><b>【内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. エンカウンター・グループ研修 (26 時間) (宿泊研修) <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 心理療法の理論 <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 個人と集団</li> <li>(2) 交流分析・芸術療法等 <ul style="list-style-type: none"> <li>パーソナルスペース</li> <li>ALPHAで自分を振り返る</li> <li>あなたを認めるストローク</li> <li>ミソドラマ 等</li> </ul> </li> </ol> </li> </ol> </li> <li>2. フォローアップ研修 (4 時間)</li> </ol> <p><b>【使用テキスト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講師作成資料</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出席状況、レポート</li> </ul>					





專 門 基 礎 分 野



授業科目	医療概論	講師	病院医師 7時間 専任教員 8時間
開講時期	3年次	単位数	1単位 時間数 15時間
<p><b>【目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現代医療（現代医学と先端医療技術）の動向と諸問題（医療倫理を含む）を知る。</li> </ul> <p><b>【内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 現代医学と先端医療技術の動向と諸問題（担当：病院医師 7時間） <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 医の倫理と患者の権利、臨床医学研究</li> <li>2) 医療の未来と高齢化社会、ゲノム医学とゲノム編集</li> <li>3) 生殖医療、補完代替療法・全人的統合医療</li> </ol> </li> <li>2. 医療倫理（担当：専任教員 8時間） <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 医療資源の配分、生命倫理4原則と看護倫理5原則</li> <li>2) 安楽死</li> <li>3) 優生思想</li> <li>4) ACP、「人生会議」</li> </ol> </li> </ol> <p><b>【使用テキスト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学生のための医療概論（医学書院）</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート</li> </ul>			

授業科目	社会福祉	講師	大学教員		
開講時期	3 年次	単位数	2 単位	時間数	30 時間
<p><b>【目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 社会福祉の歴史と現状及び社会保障・社会福祉と公衆衛生の関係について理解する。</li> </ul> <p><b>【内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 社会保障の概念・目的・機能・体系・内容</li> <li>2. 社会保障給付費、社会福祉の法制度</li> <li>3. 医療保険制度、国保と健康保険</li> <li>4. 後期高齢者医療制度、介護保険の仕組み</li> <li>5. 介護保険給付内容、居宅サービス、施設サービス</li> <li>6. 所得補償の仕組み、年金制度の仕組み、国民年金と厚生年金</li> <li>7. 労働保険の仕組み、雇用保険の仕組み</li> <li>8. 生活保護の仕組み、公的扶助の目的、扶助の種類と原則</li> <li>9. 生活福祉資金貸付制度、他扶助の手続き</li> <li>10. 高齢者福祉の現状、老人福祉法、老人保健法</li> <li>11. 障害者総合支援法、障害者福祉の仕組み、特別支援教育</li> <li>12. 障害者福祉の地域ケア支援</li> <li>13. 児童福祉の現状、DV 対策、児童福祉法、母子保健法</li> <li>14. 少子化対策、子育て支援、児童虐待の現状と対応</li> <li>15. 社会福祉に必要な知識・技術・倫理、社会福祉の課題と展望</li> </ol> <p><b>【使用テキスト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 健康支援と社会保障制度〔3〕「社会福祉・社会保障」（医学書院）</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 終講筆記試験</li> </ul>					

授業科目	関係法規	講師	大学教員		
開講時期	3年次	単位数	2単位	時間数	30時間
<p><b>【目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>法の基礎及び衛生法規に関する知識を修得し、保健師助産師看護師法を中心に医療制度の中の看護職の位置と役割を理解する。</li> </ul> <p><b>【内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護と法律</li> <li>2. 看護師の法的位置づけ</li> <li>3. 看護師の業務</li> <li>4. 民事責任の体系</li> <li>5. 刑事責任の体系</li> <li>6. 医療の提供（医療法など）</li> <li>7. 医療保障（健康保険・国民健康保険、高齢者医療）</li> <li>8. 医療・看護関係法規</li> </ol> <p><b>【使用テキスト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>健康支援と社会保障制度〔4〕「看護関係法令」（医学書院）</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>終講筆記試験</li> </ul>					



# 統 合 分 野





授業科目	看護の統合Ⅱ (看護管理・医療安全)	講師	看護管理者	8 時間		
			看護師	10 時間		
開講時期	3 年次	単位数	1 単位	時間数	30 時間	
<p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>看護サービスのマネジメントと医療安全についての基礎的知識と実際を学ぶ。</li> </ul> <hr/> <p>【単元】看護管理（担当：看護管理者 8 時間）</p> <p>【内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護とマネジメント</li> <li>2. 看護ケアのマネジメント</li> <li>3. 看護職のキャリアマネジメント</li> <li>4. 看護サービスのマネジメント</li> <li>5. マネジメントに必要な知識と技術</li> <li>6. 組織とマネジメント</li> <li>7. 看護管理システム</li> </ol> <p>【使用テキスト】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「看護管理」（医学書院）</li> </ul> <p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>終講筆記試験</li> </ul> <hr/> <p>【単元】医療安全①（担当：看護師 10 時間）</p> <p>【内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 医療安全を学ぶ意義</li> <li>2. 事故防止の考え方</li> <li>3. 診療の補助の事故防止       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 患者に投与する業務における事故防止</li> </ol> </li> <li>4. 業務領域をこえて共通する間違いと発生要因</li> </ol> <p>【使用テキスト】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>「医療安全」（医学書院）</li> </ul> <p>【評価方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>終講筆記試験</li> </ul>						

---

**【单元】医療安全②（担当：病院医療安全管理者 12時間）**

**【内容】**

1. 診療の補助の事故防止
  - 1) 継続中の医療行為の観察・管理における事故防止
2. 療養上の世話における医療事故（KYTを含む）
3. 医療安全とコミュニケーション
4. 看護師の労働安全衛生上の事故防止
5. 組織的な安全管理への取り組み
6. 医療安全対策の国内外の潮流
7. 演習：事例演習 事例の分析方法（時系列分析）

**【使用テキスト】**

- ・「医療安全」（医学書院）

**【評価方法】**

- ・終講筆記試験

授業科目	看護の統合Ⅲ (国際看護、災害看護)	講師	専任教員① 4時間 大学教員 4時間 専任教員② 6時間 専任教員③ 6時間 専任教員④ 8時間 消防署職員 4時間 病院臨床工学技士 4時間		
開講時期	3年次	単位数	1単位	時間数	36時間
<p><b>【目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的な看護の学修を統合し、さらに健康の概念や基礎技術を発展させ、看護活動の活動領域の広がりが理解できる。</li> </ul> <hr/> <p><b>【単元】国際看護（担当：専任教員① 4時間）</b></p> <p><b>【内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 国際看護とは</li> <li>2. 世界の健康問題の現状</li> <li>3. 異文化理解</li> <li>4. 国際看護活動の現状と展開</li> <li>5. 国際看護の現状と課題</li> </ol> <p><b>【使用テキスト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「災害看護学・国際看護学」（医学書院）</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レポート</li> </ul> <hr/> <p><b>【単元】災害看護（担当：大学教員 4時間）</b></p> <p><b>【内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 災害概論 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 災害の定義と分類</li> <li>2) 国内外の災害状況と対策</li> </ol> </li> </ol> <p><b>【使用テキスト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「災害看護学・国際看護学」（医学書院）</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・出席レポート</li> </ul> <hr/>					

**【単元】災害看護概論（担当：専任教員② 6時間）**

**【内容】**

1. 災害看護の歩み
2. 災害とは
  - 1) 災害の定義
  - 2) 災害の種類と健康障害
3. 災害医療の特徴
  - 1) 災害時の医療の考え方
  - 2) 災害医療実施のための体系的なアプローチ
  - 3) 災害サイクルから考える災害医療
  - 4) 災害医療対応の整備
4. 災害看護と法律
  - 1) 災害看護における法律を学ぶ意義
  - 2) 災害対策基本法
  - 3) 災害救助法
  - 4) 被災者支援制度
  - 5) 災害看護の法的な課題
  - 6) 近年の災害における課題と対策
5. 災害看護の基礎知識
  - 1) 災害看護の定義と役割
  - 2) 災害看護の対象
  - 3) 災害看護の特徴と看護活動
  - 4) 災害活動に必要な情報
  - 5) 災害看護活動におけるアセスメント
  - 6) 災害看護場面におけるジレンマ

**【使用テキスト】**

- ・「災害看護学・国際看護学」（医学書院）

**【評価方法】**

- ・終講筆記試験

---

**【単元】救護活動に必要な技術（担当：消防署職員 4時間）**

**【内容】**

1. 演習：BLS・AED

**【評価方法】**

・資格取得試験

---

**【単元】災害時の看護介入**

**【内容】**

1. 救急看護（担当：専任教員④ 8時間）

- 1) 救急看護の概念
- 2) 救急看護の対象と看護の展開
- 3) 救急処置と看護
- 4) 災害時における救護活動

演習：災害発生に必要な応急処置（包帯法、三角巾、移送等）

2. 被災者の看護（担当：専任教員③ 6時間）

災害サイクルに応じた活動現場別の災害看護

- (1) 急性期・亜急性期
- (2) 慢性期・復興期
- (3) 静穏期
- (4) 災害とこころのケア

※演習（課題）：避難所生活について考える（グループ討議・発表）

**【使用テキスト】**

- ・「災害看護学・国際看護学」（医学書院）
- ・別巻「救急看護学」

**【評価方法】**

- ・終講筆記試験
- 

**【単元】医療機器と看護（担当：病院臨床工学技士 4時間）**

**【内容】**

1. 医療機器の原理と実際
2. AED、透析機器、その他
3. 人工呼吸器、輸液ポンプ、シリンジポンプ、心電図モニターの取り扱い

演習：医療機器の取り扱い

**【評価方法】**

- ・出席レポート

授業科目	看護の統合Ⅳ (ケースレポート・技術 総合評価・看護のまとめ)	講師	専任教員① 16 時間 専任教員② 8 時間 専任教員③ 6 時間
開講時期	3 年次	単位数	1 単位 時間数 30 時間
<p><b>【目標】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 臨地実習での経験を振り返りまとめ、これまで学んできた知識・技術・態度を総合的に評価する。</li> </ul> <hr/> <p><b>【単元】 ケースレポート (担当：専任教員① 16 時間)</b></p> <p><b>【内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ケースレポートの実際 臨地実習での看護実践を 1 ケース選び、自分の実践を論理的にふり返り、担当教員の指導を受けながら論文にまとめる</li> <li>2. ケースレポートの発表 (6 時間) グループに分かれて、各自のケースレポートを発表する</li> <li>3. ケースレポート集録原稿の作成</li> </ol> <p><b>【使用テキスト】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 「看護研究」(医学書院)</li> <li>・ 「看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方」(照林社)</li> </ul> <p><b>【評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ルーブリック</li> </ul> <hr/> <p><b>【単元】 技術総合評価 (担当：専任教員② 8 時間)</b></p> <p><b>【内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護技術の「卒業時の到達度」評価</li> <li>2. 状況におけるアセスメント能力、知識・技術・態度の総合評価</li> </ol> <p><b>【評価方法】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 技術テスト</li> </ul> <hr/> <p><b>【単元】 看護のまとめ (担当：専任教員③ 6 時間)</b></p> <p><b>【内容】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「看護の本質」</li> </ol>			

- 1) 看護とは、看護の定義
  - 2) 専門職とは
  - 3) 看護倫理について
2. グループワーク・発表（ラベルワーク）  
（自分たちが目指す看護）

**【使用テキスト】**

- ・「看護学概論」（医学書院）

**【評価方法】**

- ・ラベルワークの取り組み
- ・ワークシートの提出
- ・レポート等